

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】

都道府県名	千葉県
-------	-----

I 学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	千葉市立打瀬小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	3	3	3	0	21	27
児童数	144	134	137	107	95	89	0	706	

II 研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を育む指導と評価の在り方
人とかかわる力と自己評価力の育みを中心として

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

3・4・5・6学年 総合的な学習
1・2・3・4・5・6学年 国語科
1・2・3・4・5・6学年 算数科

- ・開校以来、総合的な学習の時間の研究を続けているため
- ・確かな学力は、教科だけでなく、総合的な学習の時間も含めて全ての教育活動の中で育まれると考えたため。
- ・国語科は、昨年度の研究の課題から、「話す、聞く」力を身につけさせたいため
- ・算数科は、児童の個人差がでやすく、個に応じた指導が必要になるため

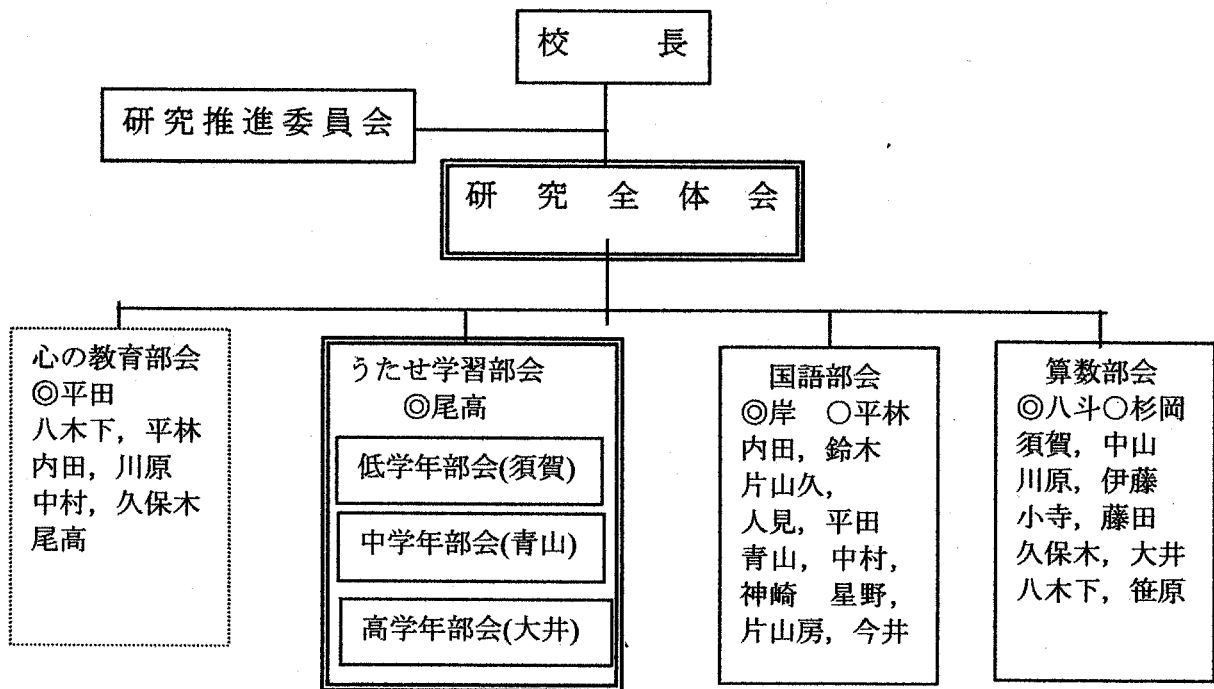
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>研究内容</p> <p>本研究は、下記の四つの内容であるが、全て並列ではなく、④はうたせ学習、国語科、算数科、心の教育を中心に全ての教育活動の中で常に重視して意図的・計画的に取り組む内容である。①、②、③については、うたせ学習、国語科、算数科で授業実践する際の課題として取り組むべき内容である。</p> <p>①一人一人に学力が付き、主体的に活動できる単元構成の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子供にとって意味のある活動か」「教師から見て価値ある内容が実現しているか」の視点から、単元構成を見直す。 <p>②個に応じた指導方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その単元、教材の学習内容、ねらいに合い、より効果の上がる指導方法、指導体制を工夫する。 <p>③一人一人の学力と学習意欲を高める指導と評価の一体化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子ども達のよい点や進歩の状況を的確に捉え、指導に生かしていく具体的な手立てを探っていく。 <p>④「人とかかわる力」「自己評価力」を高めるための場作り、指導・支援の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うたせ学習、算数科、国語科、心の教育を通して、子どもたちに共通に身につけさせたい力「人とかかわる力」「自己評価力」を高めるための場作り、指導形態、活動形態を工夫し、効果的な指導と支援のあり方を工夫して
--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>いく。</p> <p>研究方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ うたせ学習, 算数科, 国語科においては, H15.9 月と H16.9 月に意識・実態調査を行う ・ 算数科, 国語科においては, 県標準学力テストを行う。 ・ 本研究は, 授業研究を中心に据え, うたせ学習部, 算数部, 国語部の実践を通して検証を進めていく。 ・ 子どもの変容は, 単元の評価規準をもとに, 子ども達の学習の記録, 自己評価カード, 及び教師の観察, 記録等を使って行う。
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成 16 年度	<p>研究内容・方法</p> <p>平成15年度の研究成果と課題をもとに研究計画を修正し, 主題に迫るためのより具体的な手立てを各部会で検討し, 検証していきたい。特に次の3点については, 重点的に取り組み「確かな学力」を子ども達に育てていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語科の「話す・聞く」領域における低・中・高学年におけるつける力の具体的な項目を作り, 授業実践を通して, 国語科とうたせ学習のかかわりをより明らかにしていく。 ・ 算数科における課題選択学習を徹底し, 算数的コミュニケーションを高める授業を工夫する。 ・ うたせ学習では, 単元構成を工夫し, 子ども達につけたい力を明らかにし自己評価, 他者評価, 相互評価, ポートフォリオ評価を生かしながら子どもの変容を見取る <p>研究方法は, 平成15年度と同じ 観察対象児を決め, 子どもの変容を丁寧に見取るようにする。</p>
----------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(3) 研究推進体制



Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

うたせ学習の成果と課題

- ①一人一人に学力が付き主体的に活動できる単元構成の工夫
- 「学び方観点評価表」「内容系列表」を踏まえた単元構成を行ったので、教師から見た「目指す児童像」を具体的にイメージすることができ、ひいては学力の定着を図ることができた。
 - ある程度年間の活動の見通しを持たせつつも、子どもと共に話し合いながら実際の活動計画を立ててきたので、より主体的に活動する姿が増えてきた。
 - 学習活動に体験や道徳を組み入れたことは、子ども達の視野を広げ心を耕すことにつながった。
 - ▲ 課題別のグループだと他のグループがどのような活動しているか分かりづらいので、情報交換する場が必要である。
 - ▲ 総合と教科をどう関連付けて単元構成すると確かな学力が身につくのか検討する
- ②個に応じた指導方法の工夫
- ウェビングをもとに子どもの思いを実現するためのテーマ設定や活動計画を立てたり、専門家へのアポイントメントの橋渡しをしたり、その都度個人面談をすることで、子ども達の思いや願いを実現するための支援をすることができた。
 - 振り返りカードから学習履歴表をつくり、子どもの実態を把握し、指導に役立った。
 - プレゼンテーションでは、互いの思いや見通しについて練りあったことで、自分たちの活動をよりよいものにできた。
 - 一人一人の興味関心を大切にして、課題を選択させ、グループ作りをしたので、一人一人の意欲が継続化した。
 - ▲ 担任以外が支援に加わる際、日程調整が難しい
 - ▲ 土日に校外で活動することもあるので、家庭へもっと活動内容を広く知らせ、協力を仰ぐ必要がある。
- ③一人一人の学力と学習意欲を高める評価の工夫
- この学習でつけた力の自己チェックをした上で、各自が具体的なめあてもってて学習したことで、意欲を継続することができた。
 - 振り返りカードで毎時間、観点を決めてふりかえりをさせることで、子ども自身が課題を見つけ、見通しをもって粘り強く追究しようとする姿勢が身についてきた。
 - 自己評価、相互評価では、より具体的な評価項目を設定する事で、適切なふりかえりができ、意欲化につなげることができた。
 - ▲ 他者評価を受ける機会をあまり設定できず、意図的に活動に組み入れていくことが必要である。
- ④「人とかかわる力」「自己評価力」を高めるための工夫
- 夏休みも活動を継続したので、よりいろいろな人とかかわり多くの発見をすることができた。
 - 友達との話し合いを意図的に取り入れることで、伝える力や汲み取る力がついてきている。
 - 専門家に実際に会って話を聞いたり、質問をしたりする事で、子どもの興味関心が高まり、大人とのコミュニケーション能力を育てるのに役立った。
 - うたせ学習ファイルを活用することで、自分の活動を振り返り、学んだことやできるようになったことを自覚しながら、メタ認知の力が高まってきている。
 - ▲ ただ、取材に行くのではなく、めあてをもち、相手に応じた対応ができるようにする必要がある。

- ▲ 自己評価の基準がそのことによって違うので、具体例を示して、その子なりの伸びを評価するようにしていく。

国語科の成果と課題

- ① 一人一人に学力が付き主体的に活動できる単元構成の工夫
 - 子どもたちの興味関心や生活と結びつき必要感のある場を設定して「話すこと・聞くこと」がどの学年も展開できた。
 - 「書くこと」と「話すこと・聞くこと」や「読むこと」と「話すこと・聞くこと」の複合型単元が展開され、書くことや読むことで培った個々の学びが伝え合う活動を通して学び合う学習へと発展していった。
 - 低学年うたせ学習（生活科）やうたせ学習（総合的な学習）と関連させた単元構成をする中で、目的意識や相手意識をより明確にした「話すこと・聞くこと」の学習が展開された。
 - ▲ 各学年の「話すこと・聞くこと年間計画表」を再検討・改善して次年度に継承していきたい。
 - ▲ 他教科の学習にも「話すこと・聞くこと」を取り入れ、教科のねらいを高めると共に、話し合うことを通した「人とかかわる力」を育てていきたい。
- ② 個に応じた指導方法の工夫
 - 今年度は取り組み易さの面から同一課題で学習する少人数指導や興味関心別T・Tが多く実践された。教師が子どもたち一人一人と向き合う時間が保障され、学習のねらいを十分に意識させて取り組ませると共に、個々の力に応じた支援・働きかけができた。
 - 少人数やT・Tに分かれても子ども個々のねらいやつきたい力に合ったきめ細かな支援が大切であることや教師間のねらいと評価を一致させて取り組むことの重要性を再確認した。
 - ▲ 今年度は課題別のT・Tに取り組むことができなかった。子どもたち個々が自分の伸ばしたい力を認識して楽しみながら学習する単元の開発をめざしたい。
- ③ 一人一人の学力と学習意欲を高める評価の工夫
 - 「話すこと・聞くこと」に関する意識・実態調査の結果、相手にわかるように話したり、相手の意図を汲んで聞いたりすることが難しいと考えている子が多くいることがわかった。一方的な話し手、自分勝手な聞き手から相手を思いやって互いに心を通じ合わせるコミュニケーション能力の高い子どもたちを育てるという課題が明らかになった。
 - 単元でねらう「話すこと・聞くこと」の評価規準を作成し、めあてに沿った学習を展開することができた。
 - 評価規準を基に、子どもたちの「話す・聞く・話し合うめあて」を子どもたちと一緒に作成し、めあてをはっきりさせて学習に臨むようにした。また、自己評価や相互評価後に達成感を味わわせるとともに、課題を明らかにして次への意欲化を図ることができた。
 - ▲ 1年から6年にまたがる「はなす・聞く・話し合うめあて」を作成し、個々の学習履歴がわかるようにしていきたい。
- ④ 「人とかかわる力」「自己評価力」を高めるための工夫
 - 国語の学習やうたせ学習の中でいろいろな話す・聞く場が設けられた。1・2年は経験したことを中心に、3・4年は調べたことを中心に、5・6年は考えたことや伝えたいことを中心に、同じクラスの友だち、同学年、他学年、保護者や地域の方とのコミュニケーションを図る中で積極的に人とかかわろうという意欲を育てることができた。
 - ▲ 相手にわかるように話したり、相手の意図を汲んで聞いたりすることが難しいと考えている子はまだ多くみられる。次年度も多様な場を設け、話し合うことを通

して人間関係が深められるようにしていきたい。

- 子どもたち個々に「話す・聞く」のファイルを用意し、国語の学習や国語タイムで使ったカードや評価カードを学習順に整理し、逐次振り返ることで自分の達成度や新たなめあてをもつことができた。

算数科の成果と課題

①「子どもたちが意欲的に取り組む単元構成の工夫」

- 課題選択学習の意義とその実施方法について共通理解でき、全学年で実践することができた。
- 低学年が自分でチェックテストなどを基にして、課題を選択することが難しいと考えていたが、教師の適切なアドバイスとチェックテスト等の工夫で十分に自分の力で課題を選択することができることがわかった。
- 課題選択学習時の子どもの様子から「自分で選んだ課題を頑張るぞ」といった意欲が見られ、より主体的に活動できる単元構成である。
- ▲ 課題選択学習において、発展・補充課題を教材の系統と児童の実態から選定する教師の確かな目が必要である。いろいろな単元において発展・補充課題の開発が必要である。
- ▲ 課題選択学習を設ける単元を子どもの実態を鑑み設定し、年間指導計画に組み入れる必要がある。

②「個に応じた指導の工夫」

- 課題選択学習を実施することによって、発展課題を選んだ子には、その教材の違った角度から見た「発展させるたのしさ」を、そして、補充課題を選んだ子には、「できるたのしさ」を感じたことを学習感想から読みとることができた。
- 授業後の感想から、多くの児童が、自分の選んだ課題に満足していた。そのことから、実態に応じ、その個に応じた課題を設定することができたと判断できる。また、多くの児童が、自分の力を的確に捉えることができていた。ガイダンス、チェックテスト等が適正な自己評価を促していたと思われる。
- 課題選択学習を実施するにあたり、児童の実態等の意見交換を担当教諭で行う体制が整ってきた。

③「一人一人の学力と学習意欲を高める評価の工夫」

- 課題選択学習前とその後とで学習の定着を比べると、課題選択学習後の方が、定着がよかった。課題選択学習を行うことで、学習がしっかりと定着できることが確認された。
- まだまだ、十分でないが、各単元ごとの評価規準を明らかにすることで、個に応じる支援がより明確になり、授業の実践の中で生きてきている。
- 日々の授業の中で、学習感想を取り入れることによって、子どもたちの学習への取り組みの様子を把握でき、より個に応じる手立てを考える指標となった。
- ▲ 日々の授業の中で、無理ない評価の工夫を検討し、個に応じる支援を意図的・計画的に取り組み必要がある。
- ▲ 学習感想をどう次時の学習に結びつけていくか等の検討が曖昧になりがちである。しっかりと次時に結びつけるという点でどのようにすればいいか、今後検討の余地がある。

④「人とかかわる力」「自己評価力」を高める工夫

- 算数の授業毎に学習感想を書くことを習慣づけてきた。その際に、書く観点を明示することで、自己の学習の様子を振り返ることができるようになってきた。また、単元終了後、「自分ができるようになったこと」「もっとやってみたいこと」

- 等の観点を設けて、単元を通しての自己の学習を振り返ることもしている。
- 比較検討時の4つの過程（「妥当性の検討」「関連性の検討」「有効性の検討」「自己選択」）が、算数的コミュニケーションの充実を測る手掛かりになることがわかった。
 - ▲ 比較検討時の4つの過程について今後、具体的な実践の必要がある。

IV 学力等把握のための学校としての取組

うたせ学習，国語科，算数科実態意識調査（15年9月，16年2月）
 ・「人とかかわる力」「自己評価力」の変容を調査する。
 県標準学力テスト国語，算数（15年5月，16年2月）
 観点別に子どもの変容を調査する。

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・打瀬地区小・中・高等学校授業交流会（打瀬中学校，幕張総合高等学校）〔11月〕
- ・近隣学校との授業交流会（海浜打瀬小学校，打瀬中学校）〔1月に2回実施〕
- ・平成16年11月22日 研究報告会



◇ 次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	<input checked="" type="checkbox"/> 15年度からの新規校	<input type="checkbox"/> 14年度からの継続校		
【学校規模】	<input type="checkbox"/> 6学級以下	<input type="checkbox"/> 7～12学級		
	<input type="checkbox"/> 13～18学級 <input type="checkbox"/> 25学級以上	<input checked="" type="checkbox"/> 19～24学級		
【指導体制】	<input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導	<input checked="" type="checkbox"/> T・Tによる指導		
	<input type="checkbox"/> 一部教科担任制	<input type="checkbox"/> その他		
【研究教科】	<input checked="" type="checkbox"/> 国語	<input type="checkbox"/> 社会	<input checked="" type="checkbox"/> 算数	<input type="checkbox"/> 理科
	<input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 体育	<input type="checkbox"/> 音楽 <input checked="" type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 図画工作	<input type="checkbox"/> 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	<input checked="" type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無		